

## 児童養護施設 ストレスが私生活

佐藤 由香理  
児童養護施設 仙台天使園

## 施設職員の に与える影響

大橋 智樹#  
宮城学院女子大学

### 背景と目的

- 児童養護施設において、近年、虐待等不適切な環境におかれている子どもの入所が増加している
- このような子どもは、対人関係や情緒面などで問題を持つ傾向が強い
- これらの子どもを養育・ケアする施設職員の精神的負担は大きく、ストレスを感じている職員も多いが、着目されにくいのが現状である
- 本研究では、職員のストレスに焦点を当て、生活に与える影響について検討する

### 本施設の入所児童・職員人数構成

- 幼児（2歳～就学前）と学童（小・中・高校）とにわけ、それぞれ担当が異なる
- 幼児：入所児童（定員30名）に職員10名（+常夜勤1人）
- 学童：入所児童（定員50名）に職員12名（+常夜勤2人、夜勤アルバイト4人）
- このほか、心理療法士1名、事務担当等約10名

### 方法

- 調査対象者
  - 直接処遇職員7名に対し、業務の合間の会話の中で非構造化ヒアリングを行った
- ヒアリングの内容
  - 日頃、子ども達と関わる中でストレスは感じるか
  - 感じている場合、それが私生活まで引き続いたり、何か影響を及ぼしていることはあるか

### 結果

- 日頃、子ども達と関わる中でストレスは感じるか 全員が感じると回答
- そのストレスが私生活に何か影響を及ぼしているか 全員が何らかの影響があると回答
- 私生活への影響の回答内容を分類
  - 心理的影響：
    - イライラ、悲しい、ショック
    - 子どもを嫌いじゃないのに嫌いになりそう
    - 家に帰っても子どもの声が聞こえている感じがする
    - 夢を見るなど

- 行動的影響
  - 過食
  - 家族にあたる
  - 疲れ果てて家では寝てばかりいる
  - 辞めたい
- 身体的影響
  - 肩こり、倦怠感、腰痛、円形脱毛、熟睡感がないetc...
- 特に、「嫌な夢を見る」は全員が回答  
「熟睡感がない」「起きた時に嫌な気分になる」など睡眠への影響が一番多かった

## 考察

- 子どもと関わる中で、全員がストレスを自覚している。業務終了後も、不安定な心理状態が続く等、何らかの影響を及ぼしていることが明らかになった
- 最も影響を受けているのは睡眠。基本的欲求が妨げられることは、身体的・心理的にも慢性的な疲労感につながる
- 子どもに対する消極的な気分、消耗感、離職を考える等、バーンアウトの危険性も否定できない

- ストレスを感じる要因には、子どもの処遇に自信がない、といった職員自身の技術レベルも関係する
- 職員の抱えるストレスは大きく多様であり、職員のケアも必要であると思われるが、現状ではそのようなシステムや特定の専門的な相談の場などは確立していない

## 対策案と今後の課題

- 職員個人の努力に解決をゆだねるのは限界があるため、技術面・心理面共にサポートできる、集団・個別のスーパーバイズ体制を整えていくことが必要であろう
- 今後は、職員の疲労・ストレスの実態、要因等を、さらに規模を拡大して詳しく調査し、体制整備に向け検討していきたい